

建設工事に伴う大気質の予測について

建設工事に伴う大気質への影響について、建設機械の稼動と工事用車両の走行による影響が見込まれる沿道1及び2に面した4地点において、将来濃度を予測した結果は次のとおりです。

1 二酸化窒素の将来濃度（日平均値の98%値、ppm）

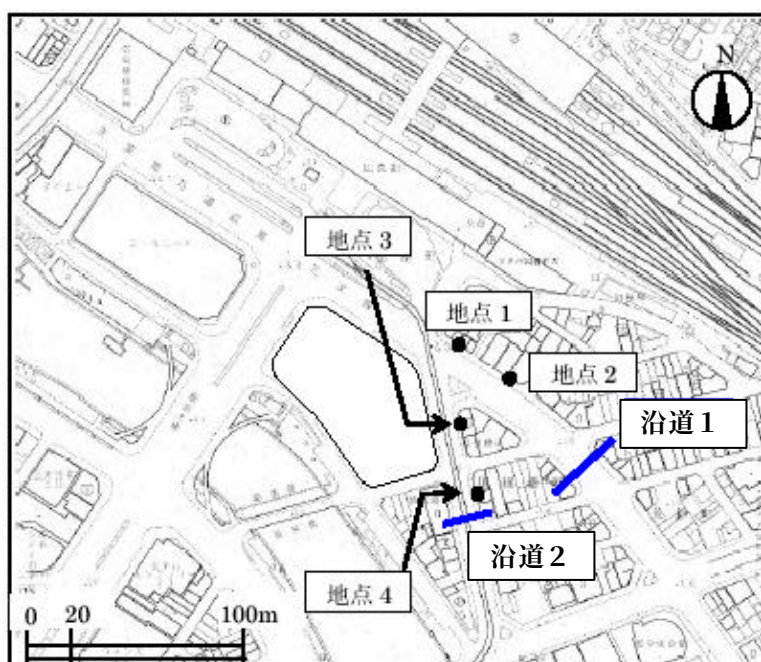
設 定 区 分	地点1	地点2	地点3	地点4	環境基準値
①：(BG) + (建設機械)	0.056	0.049	0.057	0.049	0.04～ 0.06 以下
②：(BG) + (一般車両) + (工事用車両)	0.053	0.053	0.045	0.045	
③：(BG) + (建設機械) + (一般車両) + (工事用車両)	0.060	0.057	0.056	0.052	

2 浮遊粒子状物質の将来濃度（日平均値の2%除外値、mg/m³）

設 定 区 分	地点1	地点2	地点3	地点4	環境基準値
①：(BG) + (建設機械)	0.079	0.077	0.079	0.077	0.1 以下
②：(BG) + (一般車両) + (工事用車両)	0.088	0.088	0.082	0.082	
③：(BG) + (建設機械) + (一般車両) + (工事用車両)	0.094	0.091	0.088	0.085	

(注)

- 1 予測時期は、建設工事に伴う大気汚染物質の排出量が最も多い工事開始後1か月目から1年間とした。
- 2 「BG」はバックグラウンド濃度、「建設機械」は建設機械の稼動による寄与濃度、「一般車両」は一般車両の走行による寄与濃度、「工事用車両」は工事用車両の走行による寄与濃度を示す。



予測地点図